



年 組 名前

道新 ワークシート



十勝の空に浮かんだ岩谷技研の有人気球。この後、高度1000mを超えた
＝3月8日、幕別町（金本綾子撮影）

いちから十勝

「宇宙関連ベンチャー」岩谷技研（岩谷圭介社長、札幌）が、人を乗せた気球を飛ばす実験を十勝管内で行っています。3月上旬に幕別町内で行った実験では目標だった高さ1000mに初めて届き、その後も順調な結果を重ねています。12月以降、世界初の「気球による宇宙遊覧体験」を実現させる予定です。

計画では、気球は十勝から出発します。空気より軽いヘリウムというガスを詰めたプラスチック製の気球を、約2時間かけて高さ2万5千m（25km）まで飛ばします。気球には2人乗り（客室（キャビン）が備えられており、約1時間、「青い地球を一望できて、その丸さも確認できる」（岩谷社長）景色を楽しめるそうです。帰りは約1時間かけて気球の高度を下げて着陸させます。

8月31日まで、搭乗する希望者を募っています。定員は5人で、料金は税込2400万円。搭乗者には、年齢は15歳から65歳まで、身長は150cmから190cmまでの制限があります。

ただ、宇宙飛行士のように特別な訓練は必要ありません。面談を行って、希望者に「宇宙への思い」などを聞いた上で、最終的に誰を乗せるのかを決めます。

岩谷技研 気球の有人飛行実験

世界初の「宇宙遊覧」目指す

同社の専用サイト（<https://open-universe-project.jp/outbo/>）で受け付けており、すでに問い合わせが相次いでいるそうです。

当面、キャビンに搭乗するのは操縦者と乗客の2人ですが、将来、6人乗り、10人以上乗りのキャビンを開発し、料金を今よりも安くする考えです。

幼い頃から宇宙に関心があった岩谷社長。北大に進学し、工学部で宇宙工学を勉強しました。風船で宇宙空間を撮影しようという挑戦を続け、100回以上の失敗を乗り越え、最後には成功させました。

2016年に同社を設立し、翌17年から気球による有人飛行の事業に取り組んでいます。岩谷社長は「気球による宇宙遊覧体験ができれば、宇宙がより身近になる時代が来ます」と期待しています。

（田島一幸）



2023年4月12日（水）夕刊 帯広・十勝版 2ページ（記事は再編集しています）

《1》「気球の有人飛行実験」について

〔1〕 3月に行われた実験では、どのような結果が得られましたか。

〔2〕 「計画」について説明した次の文の空欄を、記事中の言葉で補い文を完成させなさい。

約2時間かけて上空（ ① ）kmまで飛ばし、帰りは（ ② ）時間かけて着陸する。

《2》 この実験は、何を実現するために行われましたか。本文から抜き出して答えなさい。